

育児不安・育児困難感をもつ母親の
育児力を高める看護
—子育て支援の場における母親への
関わりの分析—

壹岐さより(基礎看護学)

【キーワード】 育児力, 育児不安, 育児困難感,
子育て支援, 認識

本研究の目的は、育児不安・育児困難感をもつ母親の育児力を高めるための看護の指針を得ることである。研究対象は、子育て支援の場において育児不安、育児困難感をもつ母親と関わった看護実践である。

研究方法は、育児教室及び育児相談に来た母親との関わりにおいて気になった場面を再構成して資料とし、母親の育児力の向上に意味があったと思われる場面を選択して研究素材とする。

研究素材を精読し、各場面の「関わりの意味」と「看護者の認識と表現の特徴」を取り出し、研究目的に照らして「実践上のポイント」を抽出する。それらの意味内容から共通性を検討し、看護の指針を導き出す。

研究結果：分析した研究素材は9事例9場面であり、抽出した実践上のポイントは34項目となった。それらを検討し、母親の育児力を高めるための看護について以下の指針9項目を得た。

- 1 トイレトレーニング中の親子と関わる時は、母親が子どもの様子を見ているかを確認し、子どもが不快をさげ、快を体験できるような方法を提案する。
- 2 言葉の発達に不安を感じている時には、日常生活の中で子どもの内言語を引き出す関わりが増えるように促す。
- 3 母親が判断に迷っている時は、判断根拠がわかるように関わる。
- 4 母親の育児不安に対しては、日々の生活のあり様を捉えられるように関わり、不安のもとを探る。
- 5 母親が子どもの行動だけを見ている時は、行動を起こす思いを考えられるように関わる。
- 6 母親が子どもの思いを考えようとしている時には、それを想像できる方法を示し、思いに働きかけられるように関わる。
- 7 母親の描く子どものあるべき姿にとらわれたり、社会関係から良くない刺激を受けたりしている時には、目の前の子どもをしっかりと反映できるように関わる。
- 8 母親が、子どものその時の発達段階を理解し、成長発達を支えられるように関わる。
- 9 近親の支援者との間に対立が生じている時には、近親の支援者の力をアセスメントしたうえで、母親が支援者の立場に立って思いを感じ取れるように関わる。